

# 流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

山田 7144-3993 石林 7154-7511

三原 7152-6559

2013.12.1 NO.93

メール：[info@nagareyama9.org](mailto:info@nagareyama9.org)



「九条の会・流山」HP：<http://www.nagareyama9.org/>

## 秘密保護法反対！ 日比谷集会に一万入

緊迫する秘密保護法案。与党が多数を頼んで強引に決めようとしています。修正協議など裏取引が伝えられる中、11月21日に日比谷公園に一万人が集まり、反対デモを行いました。

「九条の会・流山」は急きょチラシを作成し、21日15:30~16:30おたかの森駅でチラシを配布して訴えました。定例の9日の宣伝よりやや反応良好。200枚ほど配布でき、一定の関心もたれているようです。「頑張って」「何すればいいの」と話しかけてくる方もあり、用意した国会議員のリストと例文を渡し、「国会議員にファックスでも、メールでもいいから反対の声を伝えてほしい」とお願いしました。

その足で日比谷に向かいましたが、すでに野外音楽堂は満杯。中に入りきれない人々が公園内に溢れました。集会では弁護士や政党代表などが廃案に向けて頑張る決意をのべ、国会コースと銀座コースに分かれてデモ行進。私達は国会請願に向かいました。

今回も出発するまでに時間がかかり、しかも何度も止められ、衆、参議院面会所前でそれぞれ請願のシュプレヒコールをし、帰りついたのは11時半。国会にデモをするのも表現の自由であり、主権者である国民の意思反映の大切な手段です。広い国会通りをまばらにしか走らない車に2車線も確保し、一車線しかデモに解放しないというのは不当です。(石)

このニュース作成中に法案は衆議院通過。最後まで諦めずに廃案目指しまじょう。

## 九条の会全国交流会開く

11月16日神田の教育会館で九条の会全国交流会が開かれ、流山から3人が参加しました。



交流会ではあるが国家安全保障会議や秘密保護法など、安倍内閣の危険な政策が急ピッチで続く

中、戦いの決起集会的なものとなりました。大江、奥平、澤地氏の挨拶そしてシンポジウム。浦田一郎明治大教授は「政府の憲法解釈は自衛のための軍事力を正当化する一方で、それを超えることを否定する役割を持ってきたが、集団的自衛権を容認すればそれなくなり改憲と同じだ」と指摘。元内閣官房副長官柳沢協二氏は安倍総理は日本をどうしたいのかというヴィジョンが無い総理だと懸念を表明し、自らイラク戦争への自衛隊派遣のお膳立てをした、かつての役割を紹介しながら、イラクで一発も銃を撃たなかったことを日本のブランドとすべきだと述べました。

## 沖縄選出自民5議員

### 公約放棄し辺野古容認

11月25日、沖縄選出の衆参議院5人の議員は石破幹事長と会談し「辺野古を含むあらゆる可能性を排除しない」と普天間基地の辺野古への移転を容認する態度を明らかにしました。全員が選挙公約で県外移転を掲げて当選したにもかかわらず、これを放棄することになり、議員の資格が問われます。

## 秘密保護法案、危険ですさん

### 最大の懸念は歯止めが無いこと

最大の懸念は、拡大解釈の歯止めがないという点。担当大臣は「悪用しない」と口約束で逃れようとするが、一旦成立すれば将来の法律の暴走を防げない。

### 法制定の後で検討するというずさんさ

担当の森雅子少子化相は質問に対して「不明確な答弁ばかりが目立ち」（日経新聞）、さらに繰り返し「それは今後検討」などと答弁。内容不明などとそんな法律案は本来審議に値しないはずだ。

### 公開の原則は限りなく遠くへ

指定秘密の公開は20年→30年→60年とどんどん先へ。決めた人はそのとき誰も生きていない。さらにそれにさえ例外をもうけるという。政府は隠し放題。

### 弁護も裁判も出来ない

日弁連の江藤洋一氏は「法案を見たとき直感的にこれは危ない法律だということはすぐ分かった。なんで起訴されたか分からない。弁護士は被告人を何をどう弁護していいかわからない。こんなばかげたことが起こりうる。」という。

### 反対？賛成？維新の怪

公明は慎重姿勢を早々とひっこめ、みんなの党も「修正要求をみんな呑んでくれたから賛成」。維新の会は「修正には合意したが採決には反対」などと意味不明。自民は裏取引、他党取り込みに懸命。

### 西山事件を忘れるな

東京新聞は「国家権力はウソ隠す手段を選ばない秘密保護法案と西山事件」と危険性を訴える。

西山事件とは毎日新聞の西山太吉記者に沖縄交渉の密約がバラされて窮地に陥った政府側が、西山記者の取材方法を問題にし、男女のスクンダラスな事件にすりかえて、マスコミや国民の注意を逸らし、批判をかわそうとした事件。真実を報道した側を犯罪人に仕立て上げるのはCIAのスノーデン氏の場合と酷似している。

西山氏は「自民党政権は、沖縄密約の時から国民にウソをつき続けている。沖縄密約……の検証もないまま、機密に関する法案を提出する資格はない。法案の中身の前に、自民党の隠蔽体質を追及すべきだ」という。

### <沖縄返還交渉の密約>

沖縄返還で佐藤栄作首相とニクソン米大統領が共同声明を発表したキャッチフレーズは「核抜き本土並み」。佐藤政権は「沖縄から核を撤去し、二度と持ち込ませない」と宣伝した。その1971年6月の返還協定では、

●米国が接收した土地を戻す原状回復費用は、米国が「所有者に自発的に支払う」●日本は、米国資産買い取りや核撤去のため、米国に3億2千万ドル払うとされていた。ところが、裏では、まったく異なる事実が隠されていた。ニクソン大統領は返還合意直後、佐藤首相と「緊急事態の際は、核を持ち込む権利が認められる」との秘密文書を書いていたのだ。

財政面でも、米国は日本に3億2千万ドルのほかに、基地移転費用なども要求し、日本が負担する密約に合意。米軍への思いやり予算の原型となった。

### 西山事件を暴いた山崎豊子さん逝く

「大地の子」や「白い巨塔」など社会派小説と呼ばれる作品を徹底した取材のもとに描いてきた山崎豊子さんが9月に亡くなり、お別れの会が11月23日に営まれました。彼女が西山事件を取り上げたのが「運命の人」です。

<文春文庫から>昭和46年春、特ダネ記者の弓成亮太は沖縄返還交渉にまつわる密約の存在に勘づく。熾烈なスクープ合戦の中、彼はある女性と…。毎朝新聞政治部記者、弓成亮太。政治家・官僚に食い込む力は天下一品、自



他共に認める特ダネ記者だ。昭和46年春、大詰めを迎えた沖縄返還交渉の取材中、弓成はある密約が結ばれようとしていることに気づいた。熾烈のスクープ合戦の中、確証を求める弓成に、蠱惑的な女性の影が…。戦後史を問いつける著者、渾身の巨篇。

## 定例駅宣伝

12月は9日(月)おたかの森駅です  
15:30~16:30



カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山